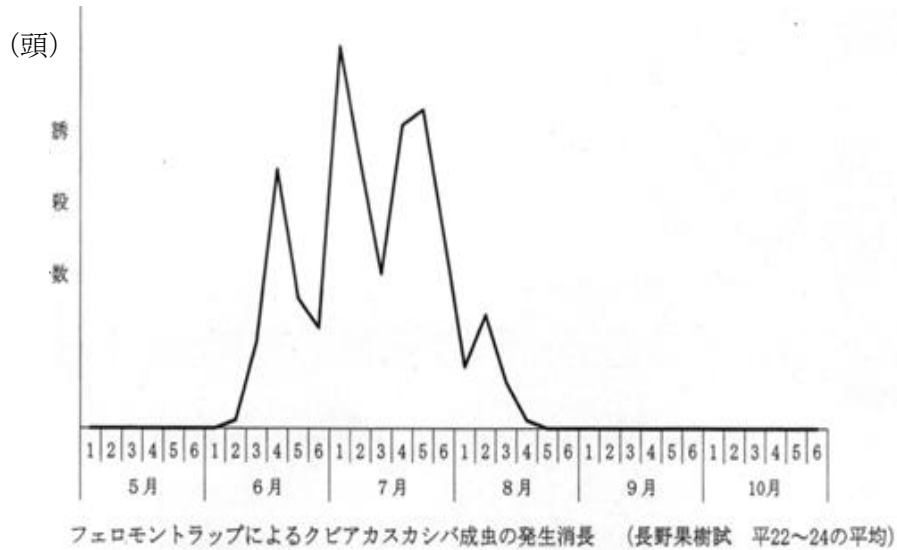


クビアカスカシバのフェロモントラップ誘殺消長 [令和8年(2026年)調査]

病害虫防除部

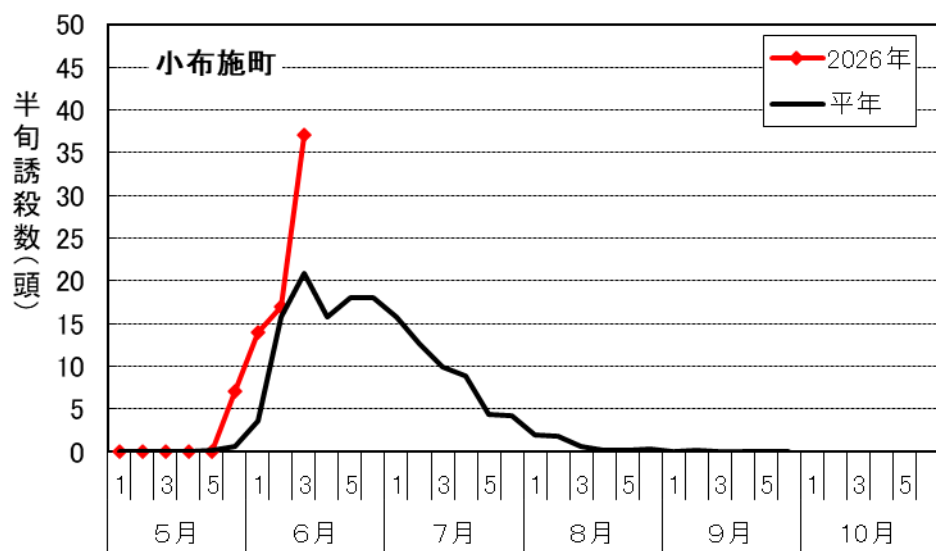
2010年から2012年までの消長模式図(果樹試験場内)



【発生生態と防除のポイント】

- ・年1回発生する。
- ・終齢幼虫が10月頃被害樹から土中に移動し、地表から数cmのところまで土繭をつくり越冬する。
- ・成虫は6月中旬頃から羽化し始め、8月中旬頃まで産卵する。
- ・体長は約3cm、翅は透明で外観はスズメバチに似ている。
- ・食入部の早期発見や枝幹部への薬剤のかかりを良くするために、休眠期に粗皮削りを行う。
- ・落花10日後(果粒の小豆大期)までと7月下旬から8月上旬(袋掛け後)の2回、登録のある殺虫剤を枝幹部に十分かかるように散布する。
- ・幼虫の食害部を見つけたら捕殺する。

○小布施町(病害虫防除部)



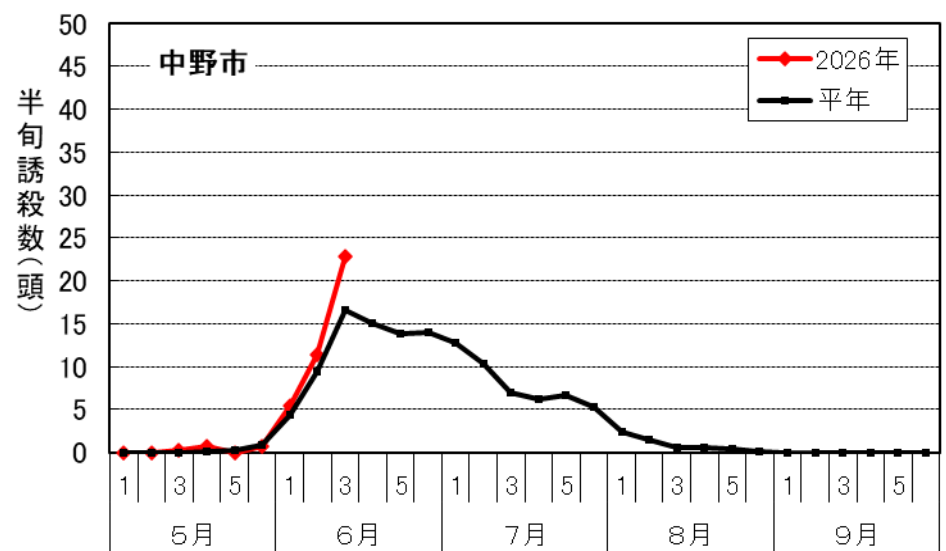
【調査地点】(標高約340m)

- ・小布施町(ぶどうほ場)
- ・平年は2016年~2025年の平均値

【コメント】

・本地点の年間の誘殺ピークは、例年6月前半に見られるが、本年も6月第3半旬に、ここまでの最大値を記録している。誘殺頭数も平年の2倍近い。

○中野市(北信農業農村支援センター調査協力)



【調査地点】(標高約360m)

- ・中野市(ぶどうほ場)
- ・平年は2016年~2025年の平均値

【コメント】

・本地点も、平年の年間誘殺ピークが6月前半にある。本年も小布施地点同様、6月第3半旬に、ここまでの最大値を記録している。